呉共済病院　院内特殊製剤一覧
第５版

院内製剤の種類・調製法及び規約について、現在、呉共済病院倫理委員会にて審議中です。

暫定の参考資料としてご参照ください。

また、本書は掲載している製剤の有効性、安全性等を保障するものではありません。
調製法、その他倫理的な配慮・問題、使用の可否については各施設にてご検討の上、調製・使用してください。

掲載されている製剤の調製・使用について起こった問題等については当院は一切責任を負いません。

平成26年10月21日　呉共済病院　薬剤科

2012 年 11 月 1 日改定

呉共済病院　院内製剤の取り扱い要項

目的

呉共済病院における院内製剤の取り扱いに関する必要な事項を定め、倫理的・化学的配慮のもと、安全で安心かつ適正に院内製剤の調製及び使用が行われることを目的とする。

定義

院内製剤を以下に定義する。

① 調剤の準備を目的とするもの
② 患者の治療・診断を目的とするもの
③ 医療に用いるが患者の治療・診断目的ではないもの

院内製剤のクラス分類

クラスⅠ:① 薬事法で**承認された**医薬品またはこれらを原料として調製した製剤を、治療・診断目的で、薬事法の承認範囲（効能・効果、用法・用量）**外**で使用する場合であって人体への侵襲性が大きいと考えられるもの
② 試薬、生体成分（血清、血小板等）＊、薬事法で**承認されていない**成分またはこれらを原料として調製した製剤を治療・診断目的で使用する場合
（＊患者本人の原料を加工して本人に適用する場合に限る）

クラスⅡ:① 薬事法で**承認された**医薬品またはこれらを原料として調製した製剤を、治療・診断目的として薬事法の承認範囲（効能・効果、用法・用量）**外**で使用する場合であって、人体への侵襲性が比較的軽微なもの
② 試薬や医薬品でないものを原料として調製した製剤のうち、ヒトを対象とするが、治療・診断目的でないもの

クラスⅢ:① 薬事法で承認された医薬品を原料として調製した製剤を、治療を目的として、薬事法の承認範囲（効能・効果、用法・用量）**内**で使用する場合
② 試薬や医薬品でないものを原料として調製した製剤であるが、ヒトを対象としないもの

患者の同意

分類Ⅱ種及びⅢ種の院内製剤を使用する場合、担当医師はあらかじめ患者に十分説明し、患者の自由意志により文書による同意を得てから使用するものとする。（様式 2）

手続き

クラス分類に従って下記の手続きを行ない、調製手順等に変更があった場合は、原則、その都度審査を行う。なお、院内製剤調製関係文書を薬剤科で5年間保管する。

クラスⅠ：倫理委員会での承認を行い、文書による患者への説明と自由意思による同意が必要。
クラスⅡ：倫理委員会での承認を行う。同意書の要・不要については倫理委員会の指示に従う
クラスⅢ：院内製剤と各使用目的のリストを院内の適切な委員会に報告

記録

院内製剤を使用した患者については、製造原料のロット番号、秤取量、患者名、使用年月日、使用量等を記録する（クラスⅠ及びクラスⅡ）

有害事象が発生した際の対応

院内製剤において有害事象が発生又は発生が疑われる時には、その重篤度に応じて、当該医療機関で定める期間内に、所定の委員会に報告を行う。

「医薬品の安全使用のための業務手順書」への記載について

院内製剤を行う場合には、院内製剤のクラス分類を含めた院内製剤一覧及びその製造及び品質保証に関する手順等について、「医薬品安全使用のための業務手順書」に項目立てを行い、記述する。

1．使用成績報告書（クラスⅠ及びクラスⅡ）
倫理審査委員会等で承認された期間の終了時には、医師から使用成績報告書や製剤改良要望書等を提出してもらい、院内製剤に関する使用者からの評価を求める。

2．所定の委員会への報告（クラスⅠ及びクラスⅡ）
少なくとも1年に1回、症例数、有害事象の有無およびその内容、有効性の評価を行い、所定の委員会に報告する。

院内製剤調製関係文書に記載する内容

① 医師からの調製依頼書
② 製造の必要性、妥当性に関する文書
③ プロトコール（製造原料、製造方法、手順、使用期限、保管方法）
④ 投与目的、用法・用量、適正使用のための注意点を記した文書
⑤ 有害事象発生時の対応を記した文書
⑥ 患者への説明書及び同意書（案）
⑦ 予想される有害事象や安全性を確保するための情報を記した文書
⑧ 定性、定量試験の手順書
⑨ 製剤に使用する機器の管理（バリデーション）状況記録簿
⑩ 製剤調製の根拠となる医学的文献
⑪ 参考文献（品質保証の根拠となる科学的文献）

目次

Ａ 内用液剤……7

Ｂ 内用散剤……10

Ｃ 注射剤・注入剤……11

Ｄ 点眼・眼軟膏剤……18

Ｅ 点耳鼻薬……22

Ｆ 外用液剤……28

Ｇ 外用散剤……37

Ｈ 軟膏剤・クリーム・口腔用剤……40

Ｉ 坐剤・膣坐剤・膣錠……41

Ｊ 消毒剤・洗浄・保存剤……55

Ｋ 検査・診断用剤……58

Ｌ その他……60

索引

あ

アセモトール……36
5% アネステジン軟膏……45
0.5% アルベカシン点眼液……20

い

5% イソジン液……37

え

23.4% NaCl 液……13
FOY 軟膏……47

か

1% γBHC ワセリン……41

き

キシロカインアズノールうがい液……52
2% キシロカイン液……70

く

1% クエン酸水溶液……69
グリセリンアズノールうがい液……53

こ

5% 塩酸コカイン液……23
鼓膜麻酔液……24

さ

ザイロリック含嗽水……44
4% 酢酸水溶液……67
5% 酢酸水溶液……68
2% サリチル酸アルコール……33
5% サリチル酸アルコール……34
20% サリチル酸ワセリン軟膏……46

し

3% 次亜硫酸水……58
シスプラチン坐剤……56
10% 硝酸銀水溶液……29
腎移植用灌流液……73

す

スクラルファート停留浣腸……38
20% ステリハイド液……31

せ

生食点眼液……19

た

滅菌タルクアンプル……14
滅菌タルク末……17

て

耳垢水(ていねい水)……25

ね

ネオ・ブロー氏液……26

は

2% ハッカ油オイラックスクリーム……49
10% ハッカ油オイラックスクリーム……50

ひ

0.05%　ピオクタニン液……65
1%　ピオクタニンブルーアンプル……66
1%　ピマリシン点耳液……27

ふ

1%　5-FU 点眼液……21
10%　フェノールグリセリン液……12
フオイパン含嗽水……42
プロマックーアルロイド G……9

ほ

墨汁アンプル……60
ボスミン-キシロカイン混合液(1:1)……30
ポタフリー7……15
ポタフリー9……16

み

ミラクリッド膣坐剤……55

め

1%　メチレンブルー液……61
2%　メチレンブルー液……62
1%　メトロニダゾール軟膏……51
10%　メントールオリーブ油……35

も

Mohs　ペースト……48
モノクロロ酢酸……32

り

0.1%　リファンピシン溶液……72

る

内服用ルゴール液……8
検査用　3%ルゴール液……63
検査用　5%ルゴール液……64

ろ

ロイコボリン含嗽水……43

Ａ　内用液剤

A-1

製剤名　　内服用ルゴール液

①処方	ヨウ素　　1g ヨウ化カリウム　　2g 精製水　　全量 30mL
②規格・単位	ヨウ素として 84.3 ㎎/mL（4.2 ㎎/滴） 投与時希釈して交付
③使用診療科	外科　放射線科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ヨウ素（　　）、ヨウ化カリウム（日局）
⑦使用器具	スパーテル、電子天秤、ビーカー
⑧調製方法	精製水を少量とり、ヨウ化カリウムを加え溶解し、さらにヨウ素を加えて溶解し精製水で全量とする
⑨調製上の注意点	ヨウ化カリウムは少量（全量の約 1/10）の精製水に溶解し、できるだけ高濃度としてヨウ素を溶解する
⑩容器及び貯法	原液は褐色ガラス瓶 ： 遮光冷暗所 希釈後は内服用プラスチックボトル（遮光袋をつけて） ： 遮光室温
⑪使用期限	3か月　希釈後は1週間
⑫適応	① 甲状腺疾患時のヨウ素補給 ② シンチレーション時の甲状腺ブロック ③ 甲状腺切除術の前投与
⑬用法・用量	① 必要に応じて1日1ー12滴(ヨウ素として5～50㎎) ② 投与3ー5日前より毎日15～30滴または当日2～3時間前に約30滴服用、投与後数日間服用 ③ 3～9滴を1日3回、手術前10日間服用 投与時希釈して交付
⑭使用上の注意	ヨード過敏症
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P13 （当院は 2009 年まで低濃度で調製していた）

A-2

製剤名　　プロマック-アルロイドG

①処方	プロマックD錠　6T アルロイドG　100ml
②規格・単位	
③使用診療科	化学療法を実施する診療科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	-
⑥処方薬剤規格	プロマック D（ゼリア新薬） アルロイド G 内用液 5%（共成＝カイゲン）
⑦使用器具	メノウ乳鉢　メノウ乳棒　内用滅菌瓶
⑧調製方法	①プロマック D をメノウ乳鉢でよく粉砕し、アルロイド G　100ml を加える ②混液はクリーンベンチ内で約 1 分間撹拌し、内用滅菌瓶に移す
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	内用滅菌瓶（白） 冷所保存
⑪使用期限	14 日
⑫適応	重症口内炎
⑬用法・用量	1 日 5～6 回（1 回 5ml）
⑭使用上の注意	● 使用する前によく振とうして混和する ● 懸濁液を口腔内に含んでもらい、口腔内全体にゆきわたれば飲み込む ● 使用後に口を洗わない ● 使用後 30 分は飲食しない
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書必要
⑰文献・その他	詳しい文献あり

Ｂ　内用散剤

Ｃ　注射剤･注入剤

C-1　現在需要なし

製剤名　　10%　フェノールグリセリン液

①処方	フェノール　　2g グリセリン　　全量 20g
②規格・単位	1mL/ｱﾝﾌﾟﾙ
③使用診療科	麻酔科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌　(115℃　30 分)
⑥処方薬剤規格	フェノール(試薬)、グリセリン(局方品)
⑦使用器具	マイクロフィルター有機溶媒用(0.8 μm)
⑧調製方法	①　グリセリンを 120℃2 時間乾燥させる ②　グリセリンをフェノール 2gに加え全量を 20gとする ③　これをマイクロフィルター(0.8 μm)でろ過し、乾燥したアンプルに分注(1-1.5mL)し、熔封後、115℃　30 分　高圧蒸気滅菌する
⑨調製上の注意点	湿度(水分)が薬効に影響することが考えられるので、低湿度の環境下で速やかに調製することが望ましい。グリセリンはあらかじめ 120℃、2 時間乾燥させておく。フェノールは試薬特級の結晶上のものを用い、ピンクに変色していないものを使用する。また、液状フェノールは使用しない。 ・フェノールはその都度新しいもの(25g)を注文。(ワコー) ・乾熱滅菌は、検査室の”微生物”に電話して確認する。→　3F 検査室(4306) ・ビーカー、スパーテルは中材で滅菌してもらう。 ・滅菌後、粘張度が落ちていれば、水分がアンプルに入っている可能性がある。
⑩容器及び貯法	褐色ステリアンプル(2mL)　冷暗所
⑪使用期限	1 年　　開封後は直ちに使用
⑫適応	くも膜下神経ブロック
⑬用法・用量	ペインクリニックで三叉神経痛や悪性腫瘍末期などの難治性疼痛を除くために、0.2-0.8mL をくも膜下腔、神経節、神経内に注入する。その際、患者を側臥位にし、当該脊髄が最下位になるようにする。
⑭使用上の注意	運動神経に影響が及ばないようブロックするために、体位、量、注入速度などに注意を要する。使用前は本剤の粘度を高めるため―5℃で冷却しておく。
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P35

C-2　現在需要なし

製剤名　　23.4%　NaCl 液

①処方	塩化ナトリウム　　23.4g 蒸留水　　全量 100mL
②規格・単位	約 4mL ／ 瓶
③使用診療科	心臓血管外科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（エキタイ 1）
⑥処方薬剤規格	塩化ナトリウム（日局）　＊未開封のものを使用
⑦使用器具	前日までに中材で滅菌してもらうもの： ビーカー（大 1、小 1）、スパーテル　1 本、メスフラスコ （100mL）1 個、 ガラスロート（小）1 個、 当日用意： 電子天秤、ステリバイアル （5mL） 20 個、注射用蒸留水 500mL、 シリンジ(10mL） 1 本、フィルター（0.22 μm）1 個、 ハンドクリッパー
⑧調製方法	① クリーンベンチの準備をし、電子天秤のスイッチを入れておく ② 塩化ナトリウムを 23.4gはかり、メスフラスコに入れる ③ 蒸留水で 100mL にメスアップした後、ビーカー（小)に移す ④ シリンジにフィルターをつけ、ステリバイアルに分注する（量はステリバイアルの 2/3 程度） ⑤ ハンドクリッパーでふたをし、高圧蒸気滅菌する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	ステリバイアル(5mL) 冷暗所保存
⑪使用期限	1年　開封後は直ちに使用
⑫適応	下肢静脈瘤硬化
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　類処方　P52

C-3

製剤名　　滅菌タルクアンプル（タルク 1g/生食 20mL）

①処方	タルク　　15g 生理食塩液　　全量 300mL
②規格・単位	20mL / アンプル
③使用診療科	呼吸器外科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（エキタイ1）
⑥処方薬剤規格	タルク（局方品 ： 丸石製薬）
⑦使用器具	滅菌済み内服ボトル 300mL 1 個、滅菌済みスパーテル 1 本、 ステリアンプル 20mL 10 本、生食ボトル 500mL、シリンジ(20-50mL のもの)、 針（18G） 適宜
⑧調製方法	① タルクを 15g はかり内服ボトルに入れる ② 生食をボトルの 1/2～1/3 まで入れてよく振り混ぜる ③ 生食をさらに加えて全量 300mL とする ④ タルクが沈まないよう、均一になっている状態にしてシリンジで 20mL ずつ吸い、20mL アンプルに入れる ⑤ 熔封後、高圧蒸気滅菌（エキタイ1）する
⑨調製上の注意点	10 μm 以下の粒子を除去した製品（調製滅菌タルク）は炎症反応が低く、肺胞での酸素交換能力が保たれ、有害事象の発生が抑制されたとの報告があるも、本邦では販売されていない。 また、タルクはメーカーにより粒子径が異なるので、製品を変更する場合には注意が必要
⑩容器及び貯法	褐色ステリアンプル（20mL） 室温
⑪使用期限	1年
⑫適応	胸膜癒着術
⑬用法・用量	胸腔内注入散布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ 同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤 第 5 版 類処方 P144

C-4

製剤名　　ポタフリー7

①処方	50%ブドウ糖　　300mL アミパレン　　200mL 生理食塩水　　200mL カルチコール　　2A
②規格・単位	約 700 mL / バッグ
③使用診療科	全科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	
⑦使用器具	ハイカリックIVHバッグ 1000mL、20mL シリンジ、18G(21G)針
⑧調製方法	クリーンベンチ内で無菌混合
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	ハイカリック IVH バッグ 1000mL 冷所保存
⑪使用期限	１０日 ： 他剤混合後は直ちに使用
⑫適応	高カリウム血症時の高カロリー輸液
⑬用法・用量	中心静脈栄養
⑭使用上の注意	末梢から投与してはならない
⑮製剤企画の動機	薬剤科による提案
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

C-5

製剤名　　ポタフリー9

①処方	50%ブドウ糖　200mL アミパレン　200mL 10%ブドウ糖　500mL カルチコール　2A 10%NaCl　20mL
②規格・単位	約 900 mL / バッグ
③使用診療科	全科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	
⑦使用器具	ハイカリックIVHバッグ 1000mL or 2000mL、20mL シリンジ、18G(21G)針
⑧調製方法	クリーンベンチ内で無菌混合
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	ハイカリック IVH バッグ 1000mL または 2000mL 冷所保存
⑪使用期限	10日 : 他剤混合後は直ちに使用
⑫適応	高カリウム血症時の高カロリー輸液
⑬用法・用量	中心静脈栄養
⑭使用上の注意	末梢から投与してはならない
⑮製剤企画の動機	薬剤科による提案
⑯分類・同意書	クラスⅢ 同意書不要
⑰文献・その他	

C-6

製剤名　　滅菌タルク末

①処方	タルク　2g
②規格・単位	2g/瓶
③使用診療科	呼吸器外科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	乾熱滅菌　（160℃、3 時間）
⑥処方薬剤規格	タルク（局方品　：　丸石製薬）
⑦使用器具	電子天秤　　スパーテル　　耐熱滅菌ガラス瓶（テフロン栓）
⑧調製方法	タルク 2gを十分乾燥させた耐熱滅菌ガラス瓶（テフロン栓）にいれ、160℃、3 時間乾熱滅菌する
⑨調製上の注意点	タルクの主成分は含水ケイ酸マグネシウムで、非反応性のため、分解されない。 微生物・細菌（クロストリジウム属）によって汚染されていることがあるので滅菌の必要がある 乾熱滅菌は、3 階検査室（4306）で行う
⑩容器及び貯法	乾熱滅菌用の耐熱滅菌ガラス瓶（テフロン栓） 室温保存
⑪使用期限	6 か月
⑫適応	胸膜癒着術
⑬用法・用量	全身麻酔下にて肺胸膜に散布する
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	胸膜癒着術の際の胸膜癒着剤
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P152

Ｄ　点眼･眼軟膏剤

D-1

製剤名　　生食点眼液

①処方	生理食塩液　5mL
②規格・単位	5mL ／ 本
③使用診療科	全科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	生食注（局方品）
⑦使用器具	シリンジ　点眼容器本体（無色）　ノズル　キャップ（青）
⑧調製方法	生食を 5mL ずつ容器に入れ、ノズルをつけ、キャップをする
⑨調製上の注意点	点眼液であり無菌操作が重要
⑩容器及び貯法	点眼容器 冷所保存
⑪使用期限	3 ヶ月　：　開封後は冷所 1 週間
⑫適応	人工涙液
⑬用法・用量	適宜点眼
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

D-2　現在需要なし

製剤名　　0.5%　アルベカシン点眼液

①処方	ブルバトシン注　　1A 生食注　　全量 20mL
②規格・単位	5mL ／ 本
③使用診療科	眼科　その他
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	フィルター（0.22 μm）滅菌
⑥処方薬剤規格	硫酸アルベカシン注射液（ブルバトシン注：100mg/2mL）、 生食注（局方品） 点眼容器本体（無色） ノズル　キャップ（赤）
⑦使用器具	シリンジ 20mL　、フィルター（0.22 μm）、針 2 本
⑧調製方法	①　ブルバトシン 1A を、20mL シリンジで吸い、生食を吸って全量 20mL とする ②　そのシリンジにフィルターをつけて、針も替えて点眼容器に 5mL ずつ分注する ③　ノズルをはめ、赤いキャップをする
⑨調製上の注意点	点眼液であり無菌操作が重要
⑩容器及び貯法	点眼容器 冷所保存
⑪使用期限	用時調製 1 週間
⑫適応	抗 MRSA 点眼 MRSA による角膜炎、角膜潰瘍、涙のう炎
⑬用法・用量	1回2ー3滴を1時間おきに点眼
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P74

D-3　現在需要無し

製剤名　　1%　5-FU 点眼液(5-FU　10mg/1mL)

①処方	5－FU(250mg/5mL)　　1A 生食　　20mL
②規格・単位	
③使用診療科	
④調製場所	安全キャビネット
⑤滅菌	フィルター(0.22 μm)滅菌
⑥処方薬剤規格	5－FU 注射液(250mg/5mL)　協和
⑦使用器具	シリンジ 30mL　1 本、フィルター(0.22 μm)　針 点眼容器本体、ノズル、キャップ(白)
⑧調製方法	①　30mL シリンジに、5-FU を 5mL とり、続けて生食 20mL をとり、全量 25mL とする ②　シリンジ内に少し空気をいれて、しっかり混和する ③　針を替え、フィルターを通して点眼容器に分注する ④　ノズルをはめ、白いキャップをする
⑨調製上の注意点	5-FU は抗がん剤であり、抗がん剤調製に準じて行う
⑩容器及び貯法	点眼容器 冷所保存
⑪使用期限	2 週間
⑫適応	角膜細胞増殖抑制
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	

E　点耳鼻薬

E-1

製剤名　　5%　塩酸コカイン液

①処方	塩酸コカイン　　100mg 生理食塩液　　2mL
②規格・単位	2mL　/バイアル
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ステリバイアル2組をあらかじめ滅菌しておく（中材） フィルター（0.22 μm）滅菌　（調製後の滅菌は必要ない）
⑥処方薬剤規格	塩酸コカイン末（武田薬品）
⑦使用器具	滅菌済みステリバイアル 2 組(溶解用と製品用)、 シリンジ(5mL) 1 筒　、 スパーテル(小)、針　(23G) 2 本、 生食 20mL　1A、 フィルター（0.22 μm） 1 個、 電子天秤、 ハンドクリッパー
⑧調製方法	①クリーンベンチの準備をし、電子天秤を入れる ②コカインを 100mg はかり、溶解用ステリバイアルに入れ、生食 2mL で溶解する ③溶解液を、シリンジできれいに吸い取り、フィルターをつけてもう一つの製品用ステリバイアルに入れる ④内蓋をし、外蓋をつけてハンドクリッパーで閉じる
⑨調製上の注意点	●コカイン溶液を吸い取ったら、さらにシリンジを引いて、シリンジ内に空気を余分に入れておくこと　（バイアルに入れるときにその空気でシリンジ内の液をすべて押し出すため）。 ●塩酸コカインは麻薬なので、箱の内側に、出した日付、量、患者氏名、調製者名を記入する。あまり早く作り過ぎない　（前日が好ましい）。
⑩容器及び貯法	滅菌済みステリバイアル　室温・麻薬金庫内
⑪使用期限	用時調製　：　開封後は直ちに使用
⑫適応	手術時の鼻粘膜の局所麻酔
⑬用法・用量	手術時、鼻粘膜に綿棒で塗布
⑭使用上の注意	麻薬処方箋が必要
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要（手術・麻酔同意書に含まれている）
⑰文献・その他	添付文書　保険適応の用法・用量

E-2

製剤名　　鼓膜麻酔液

①処方	4%キシロカイン液　　2mL 液状フェノール　　1mL l-メントール　　1g 無水エタノール　　全量 9mL
②規格・単位	9mL ／ 本
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	液状フェノール（局方品）、4%キシロカイン液（ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ）、l-メントール（局方品）、無水エタノール（局方品）
⑦使用器具	ガラス乳棒、乳鉢、スパーテル、薬杯　2本、1mL　シリンジ 1 本、10mL シリンジ 1 本 点耳容器　10mL（本体：赤、キャップ：黄）
⑧調製方法	①　薬杯を消毒し、必要量より少し多めに、キシロカイン液、フェノールを入れておき、メントールを 1g 量っておく ②　すべてを消毒し、クリーンベンチの中に入れる（①とエタノールも） ③　ガラス乳鉢にメントールを入れて粉砕し、エタノールを少し加えて溶解させる ④　フェノール 1mL をはかり③にくわえる ⑤　10mL シリンジにキシロカイン 2mL をすい、④をすう ⑥　ガラス乳鉢にエタノールを少しくわえ、乳鉢も共洗いし、⑤をシリンジですって、全量 9mL とする ⑦　専用点耳容器に移しいれる
⑨調製上の注意点	金属と接触しない。塩素により毒性の強いトリクロルフェノールを生じるので排水しない
⑩容器及び貯法	鼓膜麻酔用点耳容器　10mL（本体：赤、キャップ：黄）　遮光、冷暗所
⑪使用期限	6 ヶ月　：　開封後は 1 ヶ月
⑫適応	鼓膜麻酔
⑬用法・用量	使用前に必ず振とうする。小綿球に鼓膜麻酔液を浸潤させ、鼓膜表面に5分間留置する（鼓膜表面は灰白色となり無痛となる）。その後麻酔液を清拭除去する。
⑭使用上の注意	⑨参照
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 3 版　P143 東邦大大森 フェノールにより鼓膜の皮膚層が腐食されキシロカイン液単独時より和痛効果を高める。メントールは、芳香・矯味の他20%と高濃度のため鎮痛・局所麻酔作用があるといわれる。

E-3

製剤名　　耳垢水（ていねい水）

①処方	炭酸水素ナトリウム　　5g グリセリン　　25mL 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	10mL ／ 本
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	炭酸水素ナトリウム（局方品）、グリセリン（局方品）
⑦使用器具	電子天秤　スパーテル　30mL シリンジ　200mL 滅菌内用瓶 点耳容器(本体：透明、キャップ：黄）
⑧調製方法	炭酸水素ナトリウムを精製水に混和溶解し、グリセリンを加え混和し、精製水を加えて全量 100mL とする
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	耳垢水用容器(本体：透明、キャップ：黄） 冷所保存
⑪使用期限	6 ヶ月　：　開封後は 3 ヶ月
⑫適応	耳垢栓塞の軟化・耳垢除去
⑬用法・用量	次回来院日の前日夜と、当日朝に、横向きに寝てたっぷりと点耳し、15 分間そのままにしてしみこませる。
⑭使用上の注意	使用前には、室温にしてから使用する。（冷たいとめまいをおこすため）
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P88 Zerminal Wasser と呼ばれる

E-4

製剤名　　ネオ･ブロー氏液

①処方	酢酸アルミニウム（塩基性）　　9.6g L(+)酒石酸　　4.5g 酢酸 33%　　25mL （試薬特級 99.7%酢酸を 3 倍希釈） 精製水　　全量 100mL
②規格･単位	10mL/瓶
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	褐色ステリバイアル(10mL)
⑦使用器具	三角フラスコ（またはメスフラスコ） コンロ ビー玉 漏斗 ろ紙 アルミホイル 電子天秤
⑧調製方法	① 酢酸アルミニウム（塩基性）を 9.6g 秤量する ② L(+)酒石酸 4.5g と精製水 60mL を量り、①に加え、室温で混合する ③ 33%酢酸 25mL を加える ④ 95℃以上の湯浴中で加熱し、ときどき撹拌しながら溶解させる（2.5～4 時間） （蒸発を防ぐため、フラスコは、ビー玉と漏斗などでふたをする。湯浴も蒸発を防ぐためアルミホイルなどでふたをし、水が少なくなってきたら、水を足す）溶けたら、室温に戻す（溶けると、無色透明になる） ⑤ 全量 100mL になるように精製水を加える ⑥ ろ紙でろ過をする ⑦ ⑦の液を 5mL ずつステリバイアルに分注する。（ネオ･ブロー氏液原液） ⑧ ⑦の液を 4 倍希釈し、10mL ずつステリバイアルに分注する （ネオ･ブロー氏液 4 倍希釈液）
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	
⑪使用期限	5 か月
⑫適応	慢性化膿性中耳炎（MRSA 感染性）
⑬用法･用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望･薬剤科からの提案
⑯分類･同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献･その他	病院薬局製剤　第 6 版　詳しい説明のある論文のコピーがあります

E-5

製剤名　1% ピマリシン点耳液

①処方	ピマリシン点眼液　5ml 生理食塩液　　20ml
②規格・単位	5ml/1本
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	−
⑥処方薬剤規格	ピマリシン点眼液 5%（センジュ）
⑦使用器具	30ml シリンジ　注射針　点耳容器（本体：無色　キャップ：黄色）
⑧調製方法	①30ml シリンジにピマリシン点眼液5ml をすいとり、更に生食 20ml をすいとり全量25ml とする ②シリンジ中に空気を入れよく混和し、点耳容器2本に5ml ずつ分注する。 ③ラベルをはる ☆10mL 容器に 5mL 入れる（2 本） 余りは捨てて良い
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	点耳容器（キャップ：黄）
⑪使用期限	
⑫適応	真菌性外耳炎
⑬用法・用量	1日 2 回点耳
⑭使用上の注意	よく振ってから使用する　調製後 2 週間以上経過したものは廃棄する
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	

Ｆ　外用液剤

F-1

製剤名　　10%　硝酸銀水溶液

①処方	硝酸銀　　1g 蒸留水全量　　10mL
②規格・単位	10mL ／ 本
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	フィルター（0.22 μm）滅菌
⑥処方薬剤規格	硝酸銀（マイラン　日局）
⑦使用器具	電子天秤　ビーカー　フィルター（0.22 μm）　シリンジ
⑧調製方法	硝酸銀 1g を測りとり、蒸留水を加えて全量 10mL とし、メンブランフィルター（0.22 μm）でろ過する
⑨調製上の注意点	手やステンレスに硝酸銀が付着すると変色する 手袋を必ず装着して調製する
⑩容器及び貯法	遮光ガラス瓶（用量が小さいもの） 遮光　暗所（光により銀が遊離するため）
⑪使用期限	用事調製　期限は特に定めていないが遮光で 3 ヶ月は安定
⑫適応	鼻口腔粘膜焼灼
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	手やステンレスに硝酸銀が付着すると変色する 手袋を必ず装着して調製する
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 3 版　P157

F-2

製剤名　　ボスミン-キシロカイン混合液(1:1)

①処方	ボスミン　　30mL 4%　キシロカイン液　　30mL
②規格・単位	60 mL / 本
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ボスミン液(局方品)　　4%　キシロカイン液(ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ)
⑦使用器具	
⑧調製方法	ボスミンとキシロカインを混合し、調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　60 mL
⑪使用期限	用時調製　1 週間
⑫適応	鼻処置
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	看護部からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

F-3

製剤名　　20%　ステリハイド液

①処方	ステリハイド 20%溶液
②規格・単位	
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ステリハイド 20%溶液
⑦使用器具	製剤室
⑧調製方法	ステリハイド(20%)を必要量分注する
⑨調製上の注意点	患部以外につけないこと
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶 室温
⑪使用期限	1 年　:　開封後は 6 ヶ月
⑫適応	いぼ
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	グルタラール製剤　化学的滅菌・殺菌消毒剤

F-4　現在需要無し

製剤名　　モノクロロ酢酸

①処方	無水モノクロロ酢酸　　25g 蒸留水　　約 8mL
②規格・単位	約 8mL ／ 瓶
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	無水モノクロロ酢酸（試薬）
⑦使用器具	滅菌遮光ガラス瓶（スクリューキャップ） シリンジ　針
⑧調製方法	①　無水モノクロロ酢酸25g 瓶中に、蒸留水5mL を静かに加え、 ②　ふたをしっかり閉め、振り混ぜた後、室温で一夜放冷する ③　針状結晶が析出した瓶の中に蒸留水 1mL を加え、 ④　ふたをしっかり閉め振り混ぜた後、約 2 時間室温で放冷する③～④を2－3回繰り返し、少量の結晶が残っているところで終了する
⑨調製上の注意点	飽和状態でないと効果が減弱するので過飽和状態を保つ
⑩容器及び貯法	遮光ガラス瓶 冷暗所
⑪使用期限	1 年（データなし）
⑫適応	いぼ（尋常性疣贅）
⑬用法・用量	2週間に1度綿棒にて患部塗布
⑭使用上の注意	皮膚腐食性があるため、正常組織にはつけないよう注意する
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P145

F-5

製剤名　　2%　サリチル酸アルコール

①処方	サリチル酸　　4g グリセリン　　10mL エタノール　　全量 200mL
②規格・単位	200mL ／ 本
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	サリチル酸（局方品）、グリセリン（局方品）、エタノール（局方品）
⑦使用器具	電子天秤　シリンジ　スパーテル　外用プラボトル（茶）
⑧調製方法	①　サリチル酸 4g をはかり、これにエタノール約 20mL をくわえて溶解する ②　次にグリセリン 10mL を加えて混和し、さらに残余のエタノールを加えて全量 200mL とする
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶 室温
⑪使用期限	6 ヶ月をめやす
⑫適応	瘢風・頭部白癬 病原性糸状菌の殺菌：水むし、たむし、はたけ、いんきんなどの瘙痒性皮膚疾患
⑬用法・用量	適量を塗布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P131 （類処方）

F-6

製剤名　　5%　サリチル酸アルコール

①処方	サリチル酸　　10g グリセリン　　10mL エタノール　　全量 200mL
②規格・単位	200mL ／ 本
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	サリチル酸（局方品）、グリセリン（局方品）、エタノール（局方品）
⑦使用器具	電子天秤　シリンジ　スパーテル　外用プラボトル（茶）
⑧調製方法	①　サリチル酸 10g をはかり、これにエタノール約 20mL をくわえて溶解する ②　次にグリセリン 10mL を加えて混和し、さらに残余のエタノールを加えて全量 200mL とする
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶 室温
⑪使用期限	6 ヶ月をめやす
⑫適応	瘢風・頭部白癬 病原性糸状菌の殺菌：水むし、たむし、はたけ、いんきんなどの瘙痒性皮膚疾患
⑬用法・用量	適量を塗布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P131 （類処方）

F-7

製剤名　　10%　メントールオリーブ油

①処方	ハッカ油　　50mL オリブ油　　全量 500mL
②規格・単位	
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ハッカ油（日局） オリブ油（日局）
⑦使用器具	外用プラスチックボトル（茶） 薬杯
⑧調製方法	ハッカ油とオリブ油を混合調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　　室温
⑪使用期限	6 ヶ月
⑫適応	皮膚瘙痒症
⑬用法・用量	患部に適量を塗布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

F-8

製剤名　アセモトール

①処方	ミョウバン　20g サリチル酸　10g 酸化亜鉛　140g エタノール　200mL グリセリン　80mL ハッカ油　2mL ベルガモット油　2mL タルク　140g 精製水（RO 水）　全量 2000mL
②規格・単位	2000mL
③使用診療科	小児科　皮膚科 （全科）
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ベルガモット油以外局方品を使用
⑦使用器具	電子天秤　メスシリンダー　シリンジ　薬杯
⑧調製方法	①　ポリ容器に敷き水をし、ミョウバン、グリセリンを精製水 600mL に溶解する ②　タルク・酸化亜鉛を乳鉢に入れ①を少量ずつ加え十分研和する ③　エタノールにサリチル酸とハッカ油、ベルガモット油を溶解する ④　③に②を加えよく混和し全量を 2000m にする
⑨調製上の注意点	ハッカ油、ベルガモット油は最後に加え着色しないようにする タルクはクロストリジウム属によって汚染されていることがあるので、事前に 150℃で 3 時間乾熱滅菌したものを用いるほうがよい
⑩容器及び貯法	ポリ容器 5L 室温保存
⑪使用期限	1 年　開封後は 6 ヶ月
⑫適応	あせも治療
⑬用法・用量	適量を塗布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要 ミョウバンは試薬　を使用しており、薬価収載品に変える必要がある （硫酸アルミニウムカリウム：エビス　or　純正） ベルガモット油も未収載
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P124

F-9

製剤名　5%　イソジン液

①処方	10%イソジン液　　50mL 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	
③使用診療科	歯科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	注射用蒸留水
⑦使用器具	外用褐色プラボトル　100mL
⑧調製方法	イソジン液 50mL に精製水をくわえ、全量 100mL に調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　100mL（滅菌してあるもの）　室温
⑪使用期限	1週間
⑫適応	歯科領域における口腔内消毒
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P221　類処方あり

F-10　現在需要なし

製剤名　スクラルファート停留浣腸

①処方	〈1 回分〉 プレドニン 5 ㎎　1T［32T］ アルサルミン細粒　3g（3 包）［96g］ 注射用水　全量　15ml［480ml（500ml 細口注射用水）］　＊［ ］内は 28 本分
②規格・単位	約 15ml/本
③使用診療科	放射線科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	−
⑥処方薬剤規格	プレドニン 5 ㎎（塩野義製薬） アルサルミン細粒（中外製薬）
⑦使用器具	ビーカー　水薬ボトル（500ml） 褐色外用プラスチックボトル 30ml（調製本数分） 30ml シリンジ　漏斗
⑧調製方法	①　水薬ボトル（500ml）に湯（栓を一番熱くして）を入れ、プレドニン 5 ㎎　32 錠を入れ、振り混ぜ、懸濁させる ②　水薬ボトル（500ml）の 480ml の目盛りのところにマジックで線を引く ③　アルサルミン細粒を加える ④　注射用水を加え、全量を 480ml にしてしっかり振り混ぜる ⑤　約 40ml（適当）ずつガラスビーカーに注ぎ、シリンジで約 17ml ずつ褐色外用プラスチックボトル 30ml に分注する（沈殿するためその都度ビーカーに注ぐ前に、よく振り混ぜる） ⑥　最終的に 32 回分を 28 本に分注する
⑨調製上の注意点	● 使用時にカテーテル内にいくらか残留してしまうため、1 回分 15ml よりも多くなるように調製する（32 回分を 28 本に分注する）。 ● 混和時にかなり泡立つが、すぐに分離、沈殿してしまうため、分注する時も途中でしっかり何度も振る。 ● 注射用水は 500ml 広口開栓を用い、毎回新しいものを使用する。（残液は廃棄）
⑩容器及び貯法	褐色外用プラスチックボトル(30ml)
⑪使用期限	−
⑫適応	放射性直腸炎
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	使用前に温め、使用直前にしっかり振る
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	
⑰文献・その他	

Ｇ　外用散剤

Ｈ　軟膏剤・クリーム・口腔用剤

H-1　現在需要なし

製剤名　　1%　γ-BHC 軟膏

①処方	γ-BHC　　5g プロペト　　全量 500g
②規格・単位	
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	γ-BHC（1,2,3,4,5,6-Hexachloro-cyclohexane）（試薬：和光純薬　一級） プロペト（丸石製薬）
⑦使用器具	乳棒、乳鉢、スパーテル
⑧調製方法	γ-BHC を乳棒でよくすりつぶし、微粉末にしてから、プロペトを少量ずつ加えて調製する
⑨調製上の注意点	γ-BHC は劇物であり、冷蔵庫の金庫に保管 調製時は、手袋、マスク着用する
⑩容器及び貯法	軟膏壷 室温
⑪使用期限	用時調製 6 ヶ月
⑫適応	疥癬
⑬用法・用量	顔面・頭部を除く全身に塗布（3ー5日間） 用法には種種の報告があり、医師の指示に従う
⑭使用上の注意	できる限り短期間投与。毒性から考えると幼少児、妊婦には投与を避ける。目や口腔粘膜に入らないように注意する。γ体が最も強い殺虫作用を有しているが、副作用は少ない。大量吸収による急性中毒では激しい痙攣をともなう中枢神経刺激症状とともに、肝臓および腎臓の障害が起こる。
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	取り扱いには十分注意し、マスク、手袋を着用して製剤する。皮膚科では塗布後1時間に洗い落とすよう指導しているが、白色ワセリン基剤のものでは落としにくく、副作用の発現が考えられる。

H-2　現在需要なし

製剤名　　フオイパン含嗽水

①処方	フオイパン錠 100 ㎎　　10 錠 塩化ナトリウム　　9g カルメロースナトリウム（CMC）　　5g 蒸留水　　全量 500mL
②規格・単位	500mL ／ 本
③使用診療科	化学療法を実施する診療科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	フォイパン錠 100 ㎎（小野薬品）　カルメロースナトリウム（局方品）（CMC） 塩化ナトリウム（局方品）
⑦使用器具	スパーテル、ミキサー
⑧調製方法	①　フォイパン 10 錠を粉砕しふるいをかける ②　粉末化したフォイパン錠に塩化ナトリウム 9g と蒸留水約 400mL を加えてミキサーで混合する ③　さらに、CMC5gを少しずつ加えて、しっかり混合する。泡が消えるまでしばらく静置し、残りの蒸留水 100mL で共洗いをしながら、外用瓶に移す
⑨調製上の注意点	CMC は塊が生じやすいので、少しずつ加えること、 前日に CMC を蒸留水　約 150 mL に少しずつ加え、よく振り混ぜたものを一昼夜放置し、完全に溶解したものを使用すればミキサーは不要
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　（うがい用） 冷所
⑪使用期限	用時調製　1 週間
⑫適応	癌化学療法における口内炎
⑬用法・用量	使用前によく振とうする 1 日4回、約20mL/回　うがいする 化学療法開始1日目～終了後1週間目まで使用。
⑭使用上の注意	かなりの苦みがあるので、30 分後に 2%重曹水でうがいをしてもよい
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P109

H-3　現在需要無し

製剤名　　ロイコボリン含嗽水

①処方	ロイコボリン注 3mg　　10A 蒸留水　　全量 200mL
②規格・単位	200mL/本
③使用診療科	化学療法を実施する診療科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ロイコボリン注 3mg（武田）
⑦使用器具	注射シリンジ、注射針、フィルター（0.8 μm）
⑧調製方法	①　ロイコボリン注 10A をアンプルカット後、注射器で全量すいとる ②　ガラス片を除去するためフィルター（0.8 μm）を通し、蒸留水に混和、全量を 200mL にする
⑨調製上の注意点	現在、ロイコボリン注は用時購入となっていることもあるので、事前に在庫を確認すること ロイコボリンはガラスアンプルなので、ガラス片の混入に注意すること
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　（うがい用） 冷所保存
⑪使用期限	用時調製　1 週間
⑫適応	化学療法（MTX）による口内炎の予防および治療
⑬用法・用量	1 日 3-4 回うがい
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P148

H-4　現在需要なし

製剤名　　ザイロリック含嗽水

①処方	ザイロリック錠(100mg)　　5 錠 カルメロースナトリウム　　5g 蒸留水　　全量 500mL
②規格・単位	500 mL ／ 本
③使用診療科	化学療法を実施する診療科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ザイロリック錠 100 ㎎(GSK)　カルメロースナトリウム(局方品)
⑦使用器具	粉砕機　篩い　薬匙　電子天秤　ミキサー
⑧調製方法	①　ザイロリック 10 錠を粉砕しふるいにかける ②　粉末化したザイロリック錠に蒸留水約 400mL を加えてミキサーで混合する ③　さらに、カルメロースナトリウム 5g を少しずつ加えて、しっかり混合する ④　泡が消えるまでしばらく静置し、残りの蒸留水 100mL で共洗いをしながら、外用瓶に移す
⑨調製上の注意点	CMC は塊が生じやすいので、少しずつ加えること 前日に CMC を蒸留水　約 150 mL に少しずつ加え、よく振り混ぜたものを一昼夜放置し、完全に溶解したものを使用すればミキサーは不要
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　(うがい用) 冷所
⑪使用期限	用時調製　1 週間
⑫適応	癌化学療法における口内炎
⑬用法・用量	使用前によく振とうする 1 日4回、約20mL/回　うがいする
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P104

H-5　現在需要なし

製剤名　　5%　アネステジン軟膏

①処方	アネステジン　　5g プロペト　　全量 100g
②規格・単位	100g/瓶　適宜小分け
③使用診療科	婦人科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	アネステジン（アミノ安息香酸エチル：局方品）
⑦使用器具	乳棒、乳鉢、スパーテル、電子天秤
⑧調製方法	アネステジンを乳棒でよくすりつぶして滑らかにしてから、プロペトを少量ずつ加えて調製する （錠剤粉砕機でアネステジンを粉砕する方法もある）
⑨調製上の注意点	アネステジンが固まってダマにならないよう研和すること 混ぜすぎ注意
⑩容器及び貯法	軟膏壷 室温保存
⑪使用期限	
⑫適応	皮膚性潰瘡（乳首）、外傷，火傷、日焼け、がんこな掻痒
⑬用法・用量	患部の状態に応じて、1 日数回塗布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P158　類処方

H-6

製剤名　　20%　サリチル酸ワセリン軟膏

①処方	サリチル酸　　125g プロペト　　500g
②規格・単位	500g/瓶　適宜小分け
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	サリチル酸（局方品）　プロペト（白色ワセリン：局方品）
⑦使用器具	乳鉢・乳棒（大）
⑧調製方法	①　プロペトを湯せんにかけ、液状にしておく ②　サリチル酸を少量ずつ乳鉢にいれ、乳棒で微粉末になるまですりつぶす ③　すべてすりつぶせたら、少量ずつ液状のプロペトを加えて、混合調製する
⑨調製上の注意点	サリチル酸はふわふわしていてかなりかさ高く、粉末化するときに吸引すると粘膜刺激が強いのでマスク等で防御する
⑩容器及び貯法	軟膏壷 室温保存
⑪使用期限	6ヶ月（データ無し）
⑫適応	角皮症
⑬用法・用量	1日1～2回塗布
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第3版　P230　類処方

H-7

製剤名　　FOY 軟膏(0.5%　メシル酸ガベキサート軟膏)

①処方	レミナロン注射用　　500mg 注射用蒸留水　適宜(約 2mL) ソルベース　　95g
②規格・単位	約 100g/個
③使用診療科	外科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	レミナロン注射用 500mg　ソルベース
⑦使用器具	乳棒、乳鉢　シリンジ
⑧調製方法	①　レミナロン注射用500mgを注射用蒸留水 2mL で溶解する ②　乳鉢で①を少量のソルベースとよく混合したのち、残りのソルベースを加え、練合均等化して製する
⑨調製上の注意点	びらん面の浸出液による炎症がひどい場合に、分泌液を吸収しやすいので基剤としてマクロゴール軟膏を使用している処方例が多い。他にも亜鉛華軟膏基剤の製剤も調製しているが、亜鉛華軟膏を使用する場合は、亜鉛華にメシル酸ガベキサートが吸着される可能性がある。油脂性基剤を使用した場合は、長期安定と思われるが、水溶性基剤を使用する時は、長期保存で吸湿性に十分注意する必要がある　(参考)
⑩容器及び貯法	軟膏壷 冷暗所
⑪使用期限	1週間
⑫適応	膵液瘻による皮膚発赤、人工肛門周囲のびらんの治療 (腸瘻、人工肛門)
⑬用法・用量	軟膏を塗ったガーゼを創部にあてる。1日数回ガーゼ交換を行う
⑭使用上の注意	発疹、掻痒感などが現れることがある
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P183

H-8

製剤名　　Mohs　ペースト

①処方	塩化亜鉛　150g 注射用水　75ml 亜鉛華でんぷん　75g グリセリン　適量　（10～30ml）　全量　300g
②規格・単位	
③使用診療科	外科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	塩化亜鉛　（関東化学　試薬1級）　注射用水　（大塚　局方品）　亜鉛華でんぷん（山善　局方品）　グリセリン　（シオエ　局方品）
⑦使用器具	ビーカー　マグネチックスターラー　乳鉢　乳棒　スパーテル　軟膏壷
⑧調製方法	①ビーカーに蒸留水 75ml を入れ、徐々に塩化亜鉛 150gを加えて溶解する。（マグネチックスターラーを使用。かなり発熱し、手で触れられない状態になる） ②溶解後、放冷し、ビーカーを手で触っても熱くない状態になったら亜鉛華でんぷんを少しずつ加え、半量程度（40g）加えたら、乳鉢に移し、残余の亜鉛華でんぷんを徐々に加え（75g）練合する。（冷却しないまま亜鉛華でんぷんを加えるとゴム状に粘度が増して練合しにくくなる） ③ペースト状になったら病変の形状に合わせてグリセリンを加える。（ポケット状に陥没している場合はグリセリンを多く 30ml くらい、皮膚表面で流れやすい場合はグリセリンを少なめで 0～10ml くらい）
⑨調製上の注意点	調製後、時間と共に粘度が増すので使用時間を考えて決まった時間に調製する方が良い。
⑩容器及び貯法	軟膏壷
⑪使用期限	
⑫適応	体表部悪性腫瘍（乳がん等）　浸出液、出血コントロール
⑬用法・用量	患部以外をマスキングし、ポケット内や患部に塗布し、数時間後にふき取り洗浄する　塗布時間・粘度は患者状況に応じて医師と話し合い調節する
⑭使用上の注意	皮膚障害性が強いため、患部以外にはつかないようマスキングをして塗布する
⑮製剤企画の動機	
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	北里大学病院の処方

H-9

製剤名　　2% ハッカ油オイラックスクリーム

①処方	ハッカ油　　10mL オイラックスクリーム　　490g
②規格・単位	500g/瓶　適宜小分け
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ハッカ油（局方品）、オイラックスクリーム（局方品）
⑦使用器具	
⑧調製方法	ハッカ油 10mL をオイラックスクリーム 490g に少量ずつ加え、混合調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	軟膏壷 室温保存
⑪使用期限	データ無し
⑫適応	皮膚掻痒感
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

H-10

製剤名　　10%　ハッカ油オイラックスクリーム

①処方	ハッカ油　　50mL オイラックスクリーム　　450g
②規格・単位	500g/瓶　適宜小分け
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ハッカ油（局方品）、オイラックスクリーム（局方品）
⑦使用器具	
⑧調製方法	ハッカ油 50mL をオイラックスクリーム 450g に少量ずつ加え、混合調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	軟膏壷 室温保存
⑪使用期限	データ無し
⑫適応	皮膚掻痒感
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

H-11

製剤名　　1%　メトロニダゾール軟膏

①処方	フラジール錠 250mg　　4pT プロピレングリコール　　少量 親水軟膏　　全量 100g
②規格・単位	1%　1 回処方 10g 程度
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	フラジール錠 250 mg （塩野義） プロピレングリコール （和光純薬　試薬） 親水軟膏（丸石　局方品）
⑦使用器具	外用乳鉢　乳棒　スパーテル　軟膏壷　粉砕機　メッシュ篩（細かいやつ） 軟膏ヘラ
⑧調製方法	①予め錠剤粉砕機でフラジール錠を粉砕し、一番目の細かい篩いで篩過して微細粉末化しておく ②外用乳鉢に粉末化したフラジール末を摂り、少量のプロピレングリコールを加え錬合し、泥状とする ③②のペーストに親水軟膏を少量ずつ加えながら十分に錬合し、全質均等とし、調製する ④100g の軟膏つぼに入れ、ラベルを付ける
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	軟膏壷
⑪使用期限	3 ヵ月（データなし、 岡山大学　東京大学レシピ参照）
⑫適応	酒さ様皮膚炎
⑬用法・用量	適量を患部に塗布する
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	皮膚科医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	岡山大学病院・東京大学病院の処方

H-14

製剤名　　キシロカインアズノールうがい液

①処方	4%キシロカイン液　　15mL グリセリン　　60mL アズノールうがい液　　0.6mL（約 30 滴） 精製水　　全量 500mL
②規格・単位	500 mL ／ 本
③使用診療科	化学療法を実施する診療科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	グリセリン、4%キシロカイン液、アズノールうがい液
⑦使用器具	
⑧調製方法	キシロカイン液 4%15mL、グリセリン 60mL、アズノールうがい液 0.6mL（約 30 滴）を外用ボトルに入れ、精製水をくわえて全量 500mL に調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶 （うがい用） 冷所
⑪使用期限	用時調製　1 週間
⑫適応	抗がん剤などによる口内炎
⑬用法・用量	1 回約 30mL　 1日 6～8 回くらい
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

H-15

製剤名　　グリセリンアズノールうがい液

①処方	グリセリン　60mL アズノールうがい液　0.6mL（約 30 滴） 精製水　全量 500mL
②規格・単位	500 mL ／ 本
③使用診療科	全科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	グリセリン、アズノールうがい液
⑦使用器具	
⑧調製方法	グリセリン 60mL、アズノールうがい液 0.6mL（約 30 滴）を外用ボトルに入れ、精製水をくわえて全量 500mL に調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　（うがい用） 冷所
⑪使用期限	用時調製　1 週間
⑫適応	中等度～重度の口腔内炎症の保湿及び改善
⑬用法・用量	1 回約 30mL　 1日 4～6 回くらい
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

Ⅰ 坐剤・膣坐剤・膣錠

I-1　現在需要無し

製剤名　　ミラクリッド膣坐剤

①処方	ミラクリッド（50.000 単位）　　1V ウイテプゾール　W35　　約 50g
②規格・単位	1 個
③使用診療科	婦人科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	ミラクリッド（50.000 単位）　乾燥凍結品（バイアル）
⑦使用器具	メノウ乳鉢、乳棒、たらい（40℃くらいの湯を入れて）、ホットスターラー、温度計、シリンジ　1mL　数本、針（18G）　適宜
⑧調製方法	①　クリーンベンチの用意をする ②　ウイテプゾールをはかり取り、ビーカーに入れる ③　（クリーンベンチで）ウイテプゾールを湯せんにかけて、40℃くらいに保って、スターラーで攪拌しながら溶解させる ④　ミラクリッドを針でつついて分割し、乳鉢で5分間ほど粉砕し、微粉末にする ⑤　溶解したウイテプゾールを数 mL とって、乳鉢にいれ、混ぜてはビーカーに戻す。ミラクリッドのバイアル、乳棒も同様にして共洗いする ⑥　その後、湯せんしながら 5 分間ほど攪拌させる ⑦　シリンジで 1mL すいとって、坐薬コンテナに詰めていく ⑧　しばらく固まるまで放置 ⑨　コンテナの上部をテープでふさぐ ⑩　1 個ずつはさみで分割し、ラベルを貼る
⑨調製上の注意点	メノウ乳鉢、メノウ乳棒、スパーテル（小）、300mL ビーカーを前日に中材で乾熱滅菌してもらい、当日も温めもらっておく 温度に注意！！熱すぎると蛋白が変性する 坐薬コンテナ約50個分ができる
⑩容器及び貯法	坐薬コンテナ 冷暗所
⑪使用期限	3か月　開封後は直ちに使用
⑫適応	切迫流産
⑬用法・用量	1日1回　1個膣内に挿入
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	切迫早産、頚管開大・熟化防止（頚管開大・熟化および羊膜繊毛膜炎により破水を引き起こす原因として考えられている顆粒球エラスターゼの活性を抑制し、長期妊娠維持をはかる。またサイトカインの抑制によりプロスタンディン産生を抑制させ、子宮収縮を抑制すると考えられる）切迫早産の原因として、頚管炎や繊毛膜羊膜炎が重大な意義があるという考え方により、抗生物質膣錠の膣内挿入およびウリナスタチンの膣内投与を行う。ウリナスタチンには、強力な静菌作用と子宮収縮抑制作用があることが報告されている。

I-2　現在需要無し

製剤名　　シスプラチン坐剤（5mg/個）

①処方	シスプラチン坐剤　5mg　12 個分 シスプラチン粉末　　60mg ホスコー15　　5.76g ホスコー75　　3.84g
②規格・単位	5 mg/個
③使用診療科	婦人科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	直ちに使用
⑥処方薬剤規格	ランダ注（日本化薬）
⑦使用器具	メノウ乳鉢、乳棒、スパーテル大小各 1 本、シリンジ 1mL　適宜、坐薬コンテナ
⑧調製方法	①　クリーンベンチの準備（2 箇所の排気孔を開けておく）をし、電子天秤の用意をする ②　シスプラチンの粉末を量り取り、暖かいメノウ乳鉢にいれ、微粉末化する ③　その中にあらかじめ 50℃前後で融解させておいた基剤を少量ずつ加え、研和し、撹拌しながら残りの基剤を徐々に加え、均一に溶解するまで混ぜる ④　坐薬コンテナの中に入れる。＊0.9mL 入れると、0.8mL 分（シスプラチン 0.5mg 相当）入る ⑤　室温で放置し、固まったらテープで上を止め、冷所保存する
⑨調製上の注意点	ランダ注射液をエバポレーターにて蒸発乾固し、得られた結晶を精製水にて洗浄、吸引ろ過して脱塩後、乾燥してシスプラチン末を得ておく ジェネリック製品では結晶化を得るのに非常に時間がかかるため（回収率も悪い？）、ランダ注を用いる 前日までに、メノウ乳鉢、乳棒、スパーテル大 1 本、小 1 本を中材に出して滅菌後温めてもらっておく（乳鉢、乳棒は熱いままで使用する）
⑩容器及び貯法	坐薬コンテナ（1.35g/個） 冷暗所
⑪使用期限	2週間
⑫適応	子宮癌
⑬用法・用量	週2ー3個
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書が必要
⑰文献・その他	

Ｊ　消毒剤･洗浄･保存剤

J-1　現在需要なし

製剤名　　3%　次亜硫酸水

①処方	チオ硫酸ナトリウム　　15g 精製水　　全量 500mL
②規格・単位	500mL/瓶
③使用診療科	
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	チオ硫酸ナトリウム（試薬）
⑦使用器具	
⑧調製方法	チオ硫酸ナトリウムに、精製水を加え、全量 500mL とする
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	滅菌用シャトル瓶　茶 室温保存
⑪使用期限	6ヶ月？
⑫適応	ハイポアルコール（フェードダイン）が使用できない部位におけるヨードの清拭
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	現場からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書必要 試薬を使用しており、同意書取得の問題等があり、今後は廃止の方向で
⑰文献・その他	なし

Ｋ　検査･診断用剤

K-1

製剤名　　墨汁アンプル

①処方	特注墨汁　　2mL
②規格・単位	2mL / アンプル
③使用診療科	消化器内科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（エキタイ 1）
⑥処方薬剤規格	特注墨汁（高級墨汁）
⑦使用器具	シリンジ　針　ステリアンプル
⑧調製方法	特注墨汁をアンプルに注入し、熔封後高圧蒸気滅菌（115℃　30 分）して製する
⑨調製上の注意点	墨汁中ににかわ成分が含まれているものは、高圧蒸気滅菌にてゼリー状に固化するため、高級墨汁を使用すること また、メンブランフィルターは通過しないので使用しないこと
⑩容器及び貯法	褐色ステリアンプル（2mL） 冷暗所
⑪使用期限	1 年　：　開封後は直ちに使用
⑫適応	手術・内視鏡時における治療範囲の決定、治療後の部位の追跡・マーキング
⑬用法・用量	粘膜点墨法：治療範囲の決定、治療後の部位の追跡等を目的として、内視鏡直視下に無菌の墨汁を消化管壁に極少量注入して点状の目印をいれる
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P261

K-2

製剤名　　1%　メチレンブルー液

①処方	メチレンブルー　　0.5g 注射用水　　全量 50mL
②規格・単位	2mL ／ アンプル
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（エキタイ 1）
⑥処方薬剤規格	メチレンブルー3 水塩（試薬特級：和光）
⑦使用器具	フラスコ 100mL、スターラー、撹拌子、フィルター（0.22 μm）、 褐色ステリアンプル2mL　シリンジ　針
⑧調製方法	①　メチレンブルーを 0.5g 秤量し、フラスコに入れ、注射用水をくわえ、スターラーで攪拌、溶解する ②　溶解後、残りの注射用水を加え、全量 50mL とする ③　調製後、フィルター（0.22 μm）でろ過滅菌し、アンプルに 2mL ずつ充填する ④　熔封後、高圧蒸気滅菌 115℃　30 分を行う
⑨調製上の注意点	3 水塩の場合、正確には 1.17g で 2%になるが、染色に用いるため、正確な濃度でなくても良い（計量間違いをなくすため）
⑩容器及び貯法	褐色ステリアンプル 冷暗所　（遮光保存）
⑪使用期限	1 年　開封後は直ちに使用
⑫適応	センチネルリンパ節染色
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラス Ⅰ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 3 版　P311　類処方

K-3

製剤名　　2%　メチレンブルー液

①処方	メチレンブルー　　1g 注射用水　　全量 50mL
②規格・単位	2mL / アンプル
③使用診療科	皮膚科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（エキタイ 1）
⑥処方薬剤規格	メチレンブルー3 水塩（試薬特級：和光）
⑦使用器具	フラスコ 100mL、スターラー、撹拌子、フィルター（0.22 μm）、 褐色ステリアンプル2mL　シリンジ　針
⑧調製方法	①　メチレンブルーを 1g 秤量し、フラスコに入れ、注射用水をくわえ、スターラーで攪拌、溶解する ②　溶解後、残りの注射用水を加え、全量 50mL とする ③　調製後、フィルター（0.22 μm）でろ過滅菌し、アンプルに 2mL ずつ充填する ④　熔封後、高圧蒸気滅菌 115℃　30 分を行う
⑨調製上の注意点	3 水塩の場合、正確には 1.17g で 2%になるが、染色に用いるため、正確な濃度でなくても良い（計量間違いをなくすため）
⑩容器及び貯法	褐色ステリアンプル 冷暗所　（遮光保存）
⑪使用期限	1 年　開封後は直ちに使用
⑫適応	センチネルリンパ節染色
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 3 版　P311　類処方

K-4

製剤名　　検査用　3%　ルゴール液

①処方	ヨウ素　　3g ヨウ化カリウム　　6g 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	100mL/瓶
③使用診療科	消化器内科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	局方品（冷蔵庫：劇物）
⑦使用器具	スパーテル　電子天秤
⑧調製方法	精製水を少量とり、ヨウ化カリウムを加え溶解し、さらにヨウ素を加えて完全に溶解し、精製水で全量とする
⑨調製上の注意点	ヨウ化カリウムは少量（全量の約 1/10）の精製水に溶解し、できるだけ高濃度としてヨウ素を溶解する
⑪　容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　100mL 遮光室温保存
⑪使用期限	3か月（データなし）
⑫適応	食道における色素内視鏡検査
⑬用法・用量	食道ファイバー時で組織に散布
⑭使用上の注意	ルゴール液散布において、ヨード過敏症と甲状腺機能異常症に注意を要する。特に甲状腺機能異常患者には禁忌である。ヨード過敏症患者では問診とテストが必要である。正常人に対する甲状腺機能への影響は、PBI の一過性の上昇がみられるが、その変化は正常範囲内であると報告されている。しかし、散布後に余分な量を吸引回収することが必要である。
⑮製剤企画の動機	
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P267　類似処方 2

K-5

製剤名　　検査用　5%　ルゴール液

①処方	ヨウ素　　5g ヨウ化カリウム　　10g 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	100mL/瓶
③使用診療科	消化器内科
④調製場所	製剤室
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	局方品（冷蔵庫：劇物）
⑦使用器具	スパーテル　電子天秤
⑧調製方法	精製水を少量とり、ヨウ化カリウムを加え溶解し、さらにヨウ素を加えて完全に溶解し、精製水で全量とする
⑨調製上の注意点	ヨウ化カリウムは少量（全量の約 1/10）の精製水に溶解し、できるだけ高濃度としてヨウ素を溶解する
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　100mL 遮光室温保存
⑪使用期限	3か月（データなし）
⑫適応	食道における色素内視鏡検査
⑬用法・用量	食道ファイバー時で組織に散布
⑭使用上の注意	ルゴール液散布において、ヨード過敏症と甲状腺機能異常症に注意を要する。特に甲状腺機能異常患者には禁忌である。ヨード過敏症患者では問診とテストが必要である。正常人に対する甲状腺機能への影響は、PBI の一過性の上昇がみられるが、その変化は正常範囲内であると報告されている。しかし、散布後に余分な量を吸引回収することが必要である。
⑮製剤企画の動機	
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P267　類処方あり

K-6

製剤名　　0.05%　ピオクタニン液

①処方	ピオクタニンブルー　　0.05g 蒸留水　　全量 100mL
②規格・単位	
③使用診療科	
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（フリーPP） 115℃ 30 分
⑥処方薬剤規格	外用プラスチックボトル　茶　30mL
⑦使用器具	フィルター（0.8 μm）　滅菌用プラボトル（白） 50ml シリンジ　注射針 2 本 ビーカー　スパーテル　電子天秤
⑧調製方法	① ピオクタニンブルーを蒸留水とよく混和し、0.8 μm のフィルターでろ過をし、滅菌用プラボトル（白）に入れる ② 115℃ 30 分で高圧蒸気滅菌する ③ 滅菌後、クリーンベンチ内で、外用プラボトル（30ml）に分注する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　30mL 室温保存
⑪使用期限	用時調製 （データないため設定していない　未開封のものは 6 ヶ月以内）
⑫適応	色素内視鏡
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	なし

K-7

製剤名　　1%　ピオクタニンブルーアンプル

①処方	ピオクタニン　　1g 蒸留水　　全量 100mL
②規格・単位	2mL/A
③使用診療科	手術室
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌（エキタイ 1）　115℃　30 分
⑥処方薬剤規格	ピオクタニン（試薬）
⑦使用器具	メンブランフィルター（0.8 μm）　1　　100ml 内用ビン　1　　スパーテル　1 ステリアンプル（2ml）　薬杯　1　10ml シリンジ　1　　18G 針　1
⑧調製方法	①　ピオクタニンブルーを 1gはかりとり、蒸留水で溶解し、全量 100mL とする ②　メンブランフィルター（0.8 μm）を通して、2mL ずつアンプルに分注する ③　溶封後、115℃　30 分　高圧蒸気滅菌を行う
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	ステリアンプル　2mL 室温
⑪使用期限	1 年　開封後は直ちに使用
⑫適応	手術時のマーキング
⑬用法・用量	シャーレにとり、滅菌綿棒で臓器にマーキングする
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	なし

K-8

製剤名　　4%　酢酸水溶液

①処方	酢酸　　4mL 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	30mL/本
③使用診療科	婦人科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌　115℃　30 分
⑥処方薬剤規格	酢酸(試薬特級)
⑦使用器具	シリンジ　薬杯　滅菌シャトル瓶(白)　外用プラスチックボトル　茶
⑧調製方法	①　滅菌シャトル瓶(白)に酢酸 4mL と精製水を加え、全量 100mL とする ②　115℃、30 分で高圧蒸気滅菌する ③　温度が室温まで下がったら(翌日)クリーンベンチで 30mL 滅菌外用ビンに移す
⑨調製上の注意点	酢酸の蒸気は呼吸器を刺激し皮膚に激しい炎症を起こすので、調製時はメガネ、マスク、手袋を使用する
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶 室温保存
⑪使用期限	6か月
⑫適応	子宮頚部上皮内病変の診断に用いる(コルポスコピー)
⑬用法・用量	綿球に浸して塗布、酢酸塗布後の上皮の変化をみる
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要 (局方品(30-32%)で調製すればクラスⅡ)
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P224(2,3,5%製剤)

K-9

製剤名　　5% 酢酸水溶液

①処方	酢酸　　5mL 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	30mL/本
③使用診療科	婦人科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	高圧蒸気滅菌　115℃　30 分
⑥処方薬剤規格	酢酸(試薬特級)
⑦使用器具	シリンジ　薬杯　滅菌シャトル瓶(白)　外用プラスチックボトル　茶
⑧調製方法	①　滅菌シャトル瓶(白)に酢酸 5mL と精製水を加え、全量 100mL とする ②　115℃、30 分で高圧蒸気滅菌する ③　温度が室温まで下がったら(翌日)クリーンベンチで 30mL 滅菌外用ビンに移す
⑨調製上の注意点	酢酸の蒸気は呼吸器を刺激し皮膚に激しい炎症を起こすので、調製時はメガネ、マスク、手袋を使用する
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶 室温保存
⑪使用期限	6か月
⑫適応	子宮頚部上皮内病変の診断に用いる(コルポスコピー)
⑬用法・用量	綿球に浸して塗布、酢酸塗布後の上皮の変化をみる
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要　局方品(30-32%)で調製すればクラスⅡ
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　P224(2,3,5%製剤)

K-10

製剤名　　1% クエン酸水溶液

①処方	クエン酸　0.5g 蒸留水　　全量　50ml
②規格・単位	
③使用診療科	耳鼻科
④調製場所	調剤室
⑤滅菌	×
⑥処方薬剤規格	クエン酸（局方品）
⑦使用器具	
⑧調製方法	クエン酸　0.5gをはかり、プラスチックボトル茶 60ml　に入れ、50mL の目盛に線を引く。（蒸留水 50mlは使用前に耳鼻科で加える）
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	プラスチックボトル茶 60ml
⑪使用期限	
⑫適応	咳反射テスト
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	使用前に蒸留水 50mlを加える
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅡ　同意書必要
⑰文献・その他	

K-11

製剤名　　2% キシロカイン液

①処方	4%キシロカイン液　　50mL 精製水　　全量 100mL
②規格・単位	
③使用診療科	内視鏡室
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	注射用蒸留水
⑦使用器具	外用褐色プラボトル　100mL
⑧調製方法	4%キシロカイン液 50mL に精製水をくわえ、全量 100mL に調製する
⑨調製上の注意点	
⑩容器及び貯法	外用プラスチックボトル　茶　100mL（滅菌してあるもの）　室温
⑪使用期限	１週間
⑫適応	内視鏡検査
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

L その他

L-1　現在需要なし

製剤名　　0.1%　リファンピシン溶液

①処方	リファンピシン末　　100 mg アスコルビン酸　　100 mg 塩化ナトリウム　　490 mg 0.05M リン酸緩衝液　　q.s.　100mL
②規格・単位	100mL/瓶
③使用診療科	心臓血管外科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	メンブランフィルター（0.22 μm 以下）
⑥処方薬剤規格	リファンピシン末（試薬） アスコルビン酸末（試薬特級） 塩化ナトリウム（局方品） 0.05M リン酸緩衝液（院内製剤　試薬特級）
⑦使用器具	滅菌空バイアル 100mL、pH メーター、ビーカー、スターラー、撹拌子、 0.2 μm メンブランフィルター、100mL シリンジ
⑧調製方法	① リファンピシン末 100mg を 0.05M リン酸緩衝液（pH8.0）100mL に撹拌溶解する （色：茶褐色　　溶解時間：1 時間程度） ② 溶解後、塩化ナトリウム 490 mgとアスコルビン酸 100 mg（抗酸化剤）を加え撹拌溶解する（色：オレンジ） ③ クリーンベンチ内で 100mL 滅菌空バイアルに、0.2 μm メンブランフィルターで滅菌ろ過充填する
⑨調製上の注意点	撹拌に時間がかかる あらかじめ 0.05M リン酸緩衝液を調製滅菌しておく
⑩容器及び貯法	滅菌空バイアル(100mL) 冷暗所
⑪使用期限	用時調製　データが無いため設定していない
⑫適応	人工血管の感染防止
⑬用法・用量	手術時、人工血管をリファンピシン溶液に 30～60 分間浸漬する
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅠ　同意書が必要
⑰文献・その他	病院薬局製剤　第 5 版　p146

L-2

製剤名　　腎移植用灌流液

①処方	ヴィーンF　500mL 2%キシロカイン静注用　5mL 7%メイロン　7mL ノボヘパリン 5000 単位　5mL
②規格・単位	約 520 mL ／ バッグ
③使用診療科	泌尿器科
④調製場所	クリーンベンチ
⑤滅菌	ー
⑥処方薬剤規格	
⑦使用器具	10mL シリンジ 2本、注射針 18G・21G 各1本
⑧調製方法	冷所にて保存しておき、腎移植当日にクリーンベンチ内で無菌混合を行う。
⑨調製上の注意点	メイロン注は配合変化が起こりやすいため、単独で一番最後に混合する。
⑩容器及び貯法	用時調製 冷暗所
⑪使用期限	
⑫適応	腎移植用灌流液
⑬用法・用量	
⑭使用上の注意	
⑮製剤企画の動機	医師からの要望
⑯分類・同意書	クラスⅢ　同意書不要
⑰文献・その他	

様式1

No.

新規製剤調製依頼書

薬局長　殿

下記製剤の調製を依頼します

平成　　年　　月　　日

診療科(部)名		診療科(部)長印	
依頼医師名			㊞
連絡先	内線(　　)		

製剤名	規格 数量
製剤量　　継続使用　有 ・ 無 処方(製剤条件,滅菌,等張化剤,保存剤も含めて詳細に記入のこと)	
病名・必要性(使用目的)・参考文献(品質保証の根拠となる科学的文献を添付のこと)	
患者への説明及び同意の有無　有 ・ 無	

受託臨床研究審査委員会　平成　　年　　月　　日付議

意見等　　病院長 承認　　㊞

調製法(薬剤科記入欄)　平成　　年　　月　　日

呉共済病院　薬剤科

薬局長		薬剤係長		薬剤師	

様式 2

院内製剤使用の説明と同意書

国家公務員共済組合連合会呉共済病院長 殿

1. 院内製剤使用の説明

私は、患者

法定代理人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿に

院内製剤＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿について、

以下の内容の説明をしました。

1. 院内製剤の組成、使用目的、及び使用方法
2. 院内製剤の投与により期待される効果、予想される副作用、および安全性を確保するための情報
3. 他の治療薬との相違
4. 患者の同意
   a. 同意しなくてもそのための不利益は受けない事
   b. 同意した後でも申し出により随時使用の撤回ができる事

平成　年　月　日

＿＿＿＿科　医師＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

2. 院内製剤使用の同意

私は、上記内容の説明を医師より受け、院内製剤の使用による治療に同意し、
依頼しました。

平成　年　月　日

患者の署名および捺印

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

患者の親族または法定代理人の署名および捺印

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

クリーンベンチ

日常運転マニュアル

1，毎日の運転について
① 主電源S／W（ブレーカー）を入れる。（電源ランプ点灯）
② 蛍光灯S／Wを押し点灯する。
③ ファンS／Wを入りにし運転を開始する。（風量調節つまみで調節する）
④ 作業終了後は殺菌灯S／Wを押し、点灯させておく。

2，定期操作について
① プレフィルターは月2回程度再生して下さい。（再生方法は取扱説明書参照願います）

3，消耗品の標準交換サイクル
① プレフィルター　　2年毎交換
② HEPAフィルター　　差圧計が280Paを指したときに交換して下さい。

ボイラ使用方法

運転開始行程
1．空気取入弁（バルブ②）を閉じる。
2．ガス元コック（バルブ①）を開ける。
3．運転スイッチを押す。「運転」表示灯が点灯し、約20秒後「燃焼」表示灯が点灯する事を確認する。
以後、ボイラは自動運転になります。
＊「全ブロー」表示灯が点滅している時は、ボイラで自動ブロー行程を行うため、蒸気　圧力が上昇するまでに約25分かかります。

運転停止行程
1．運転スイッチを押す。「運転」表示灯が消灯する事を確認する.
2．ガス元コック（バルブ①）を閉める。
3．空気取入弁（バルブ②）を約45°　開ける。

点検整備項目
1．外観チェック　機械の変形・破損・水及び蒸気漏れ等の確認
2．ボイラ着火及び燃焼時の動作・異音等の確認
3．薬注タンクの液量及び減り方の確認
4．軟水器の塩の量及び減り方の確認

警報ブザー及び異常表示のリセット方法
異常発生時には、警報ブザーが鳴ると共に、「異常」表示灯が点灯します。
1．運転スイッチで警報ブザーを解除します。
2．次に、運転スイッチ右上のリセットスイッチを押し、「異常」表示灯を消灯します。
3．2～3度上記リセット方法を行っても、ボイラが正常に作動しない場合は、異常内容（コード）を確認し、下記までご連絡ください。

連絡先
株式会社サムソン広島営業所
TEL082－291－5301

超純水製造装置

日常運転マニュアル

1，毎日の運転について

① 床立ち上がりの給水バルブ及び軟水器の原水弁を開ける。

② 操作電源S／Wを「入」にする。

③ MP及びCPを「入」にする。

MP：モジュールポンプ RO水を造水するためのポンプ

CP：循環ポンプ RO水を流し台及び水剤台に送水するためのポンプ

④ 超純水を採取するときは、採水S／Wを押して下さい。押すと吐出し離すと止まります。

2，定期操作について

① 軟水器の塩は定期的に確認及び投入を行って下さい。（適量は、フロートケースに巻いてあるスポンジの範囲）

② 循環配管を滅菌するため、毎週高温滅菌を行って下さい。

高温滅菌ON S／Wを押して頂くと、後は自動的に昇温－降温を行います。又、高温水循環中に流し台や水剤台の蛇口を開けることにより、カランからの逆汚染を防止します。

尚、高温滅菌動作を途中で停止したいときは、高温滅菌OFF S／Wを押して下さい。直ちに温度調節計のSP設定温度まで降温を開始します。

3，標準設定

① 温度調節計 SP：35℃

AL：80℃

※夏場は原水温が高いためSP設定温度まで降温しにくい事があります。

4，消耗品の標準交換サイクル

① プレフィルター 毎年 3・7・11月 （4ヶ月毎）

② 逆浸透膜 2カ年毎 7月 （次回平成15年）

③ イオン交換カートリッジ 純水水質計が1μsを越えたとき

④ 限外濾過膜 3カ年毎 7月 （次回平成16年）

⑤ 紫外線殺菌灯 アワーメーターが4000時間を越えたとき

⑥ エアーフィルター 毎年 7月

⑦ 軟水器イオン交換樹脂 3カ年毎 7月 （次回平成16年）

保冷パスボックス

日常運転マニュアル

1，毎日の運転について

① 操作パネル奥部ブレーカーを入れる。（常時ON）

② 操作パネル（温度調節器）「POWER」S／Wを押す。

③ 色々な表示がでた後、庫内温度が表示されます。

2，定期操作について

① 一週間に1回本体下部の露受けバットの水を捨てて下さい。

3，標準設定

① 設定温度 ＋5℃

許容温度範囲 ： 設定温度±5℃（この範囲を超えると警報がでます）

霜取り動作 ： 8時間毎30分間（この時操作パネルには「dF」が表示されます。

4，注意事項

① 本装置には結露防止機能を持っておりますが、湿度の高い環境下では本体表面に結露を起こす事があります。

② 本体表面が結露防止ヒーターや冷却コイルの影響により、熱くなることがありますのでご注意下さい。

薬液洗浄パスボックス

日常運転マニュアル

1，毎日の運転について

① 主電源S／W（ブレーカー）を入れる。（電源ランプ点灯）

② 運転時間を設定する。

③ 庫内に被洗浄物を入れ、運転S／Wを入れスタートする。

④ 乾燥工程終了まで自動運転をし、その後反対面より取り出して下さい。
（取り出すまで、正面側の扉は開きません）

2，定期操作について

① フィルター目詰まり警報が点灯しましたら、エアーフィルター交換が必要ですので、発注して下さい。
（点灯中でも運転はできます）

② 洗浄液異常警報が点灯しましたら、洗浄液（消毒用エタノール）が減少しておりますので補充して下さい。
（点灯中は運転は停止します）

3，標準設定

① 設定時間：30分（但し、乾燥が良くないときは延長して下さい）

4，消耗品の標準交換サイクル

① エアーフィルター：フィルター目詰まり警報が点灯したとき

② 消毒用エタノール：洗浄液異常警報が点灯したとき

③ 洗浄液用フィルター：毎年7月